

保存木材の性能を生かす

未利用材
利野で
木用材

エコアコルウッドで準不燃認定も

企業編

九州木材工業（福岡県筑後市、角博社長）

は、建築材はもちろん、それ以外の内装・建具、外構用途に保存木材の需要拡大を進めていくことで、2酸化炭素の長期固定（排出量削減）に貢献していくことを目指す。

我が国が京都議定書の公約を守るには森林整備とともに、それに伴う間伐材を中心とした木材利用を大幅に増やす必要があるが、将来的に人口が減少し新設住宅着工減が見込まれるなかでも、コンクリート、金属などが利用されることの多かつた様々な分野で保存木材が代替できる需要はまだ多くあると見て

いるからだ。

そのなかで国産材活

強める。

エコアコルウッドが準不燃認定を取得したことで、都市部のヒグが全面的に採用される。一方、新たな需要としてエコアコルウッドの寸法安定性等の



杉、松のエコアコルウッドの各種製品

「今後、保存ウオール、外壁、門扉木材という概念は防蟻・防代替することができれば大きな需要。同社で超え、各種性は現在、設計士などを中心に市場調査を行っていることで木材を、ニーズにある程度のもので、長期間保存する量産に向けた設備投資は」（角社を）する意向だ。

用を目的に福岡県の産材が準不燃認定を取得したことで、都市部のヒグが全面的に採用される。一方、新たな需要としてエコアコルウッドの寸法安定性等の外壁劣化抑制、ヤング率向上、無毒性を確保しているうえ、さきに国土交通省の準不燃材認定も取得している。例えはカーテン

が追加しており、知名構造用集成材用ラミナの性能を生かし、杉、松の研究なども行っているところだ。